

広島市植物公園 見どころ案内

ウメ‘藤牡丹枝垂れ’ (バラ科)

日本庭園の名物、枝垂れウメが見事に咲いています。茶室の‘白加賀’は花も美しいですが、実ウメとしても人気があります。

ハナモモ‘雛遊び’ (バラ科)

広島生まれの品種で、他のハナモモより一足先に一重の淡いピンクの花を咲かせます。

カンヒザクラ (バラ科)

沖縄に自生するサクラで、濃いピンクのつりがね状の花が咲き始めました。隣のカワヅザクラは伊豆半島の河津町で発見された早咲きの桜です。

早春の花木

黄色い花のサンシュユは別名「ハルコガネバナ」ともいいます。ゲンカイツツジのピンク色との競演をお楽しみください。茂みの奥には早咲きの啓翁桜(ケイオウザクラ)も見えます。

ウメ (バラ科)

今年は天候不順のために遅れて咲き、満開となりました。約50品種100本が咲いています。

「草木染の世界」展

～4月5日(展示資料館)
草木を使った染物と染色に利用される植物、染色方法を紹介します。18日には、ギャラリートーク(展示解説)、講習会もあります。

ヘレボルス・アトロルベンス

(キンポウゲ科)

クリスマスローズの原種のひとつで、黒っぽい赤のシックな花です。シクラメンの原種コウムも岩かげのあちらこちらで咲いています。

ゼラニウム展

～4月18日(展示温室)
多彩な花色と葉の模様が美しいゼラニウムや様々な香りがある香りゼラニウムを展示しています。

祝！大温室

リニューアルオープン

日本一のパオバブ、植物を間近で見られる空中デッキ、巨大コンニャクの並木など館内を一新しました。詳しくは裏面をご覧ください。バリアフリー化により車椅子でも観覧いただけます。

マンドレイク (ナス科)

別名マンドラゴラ。引き抜くと悲鳴を上げるという伝説で有名な薬用植物です。冬から春まで薄紫の可憐な花を咲かせ続けています。

